

1964年 10月 29日

親愛なる宗淵老師様

涼しい秋の龍沢寺で、かいさんとタイさんを交えて十分に話し合う機会がおりだったと察しています。私は貴方が決定なさる事に関して、些かも強要は致しません。ただ、私は貴方の親しかったハワイの友人達の進歩の状態を報告申し上げるのみです。

大きなニュースは、■■■■ が病気になる前に看護婦として働いていた、回復期の患者のための保養所に復職したことです。彼女はまだこの復帰に成功するかどうか自信がなく、実は、内心ではアンも私も少し疑問を抱いているのですが、彼女にとって看護婦の資格を更新し、胸のレントゲン写真を取り、様々な手続きを経て、前の地位に戻る事は、非常に大きなステップなのです。もし彼女がこの仕事を続けることが出来なければ、遠からず他の、彼女の状態にふさわしい職を見つけることになるでしょう。彼女は既に葉は使用しておらず、街の精神科診療所に匹敵する、州立病院の外来患者用の医院へ通っています。（これは彼女が、ようやく、州立病院を退院したということです。）彼女は、引き続き私達と共に住みますが、私達は彼女を愛し、これは私達の喜びでもあります。

私達は自動耕作機を購入（鋤に似たもの）プブキアの雑草除去や、果樹の周囲や菜園を耕すために役立っています。前の土曜日には、13人が集まって賢明に働きました。私達はやっと、海軍兵夫妻にあの小別荘を一ヶ月70ドルの、月毎の契約で貸す事が出来ました。これは私達にとって、毎月の出費の半分より少し少ない額になるのですが、大いに助かります。

表面的には、私達の集會は大成功で、週毎に成長が見えます。毎晩多くの人々が坐禪に集まり、時折アンと私が外出しなければならない夜も同様です。毎水曜日の定期集會には、通常、12人から15人が集まり、日曜日には少し少なくなります。毎月、第二、第三日曜の、四時までの全日集會には、5～6人が参加します。メンバー自身は非常に真剣なのですが、ここに問題があるのです。彼らは、“ああ！すべては一つなのだ” — という思いに至る概念に満足していません。彼らは皆、賢明に修行し、数息觀を行い、一部の者はすべてが空になり、暗くなり、無になる境地を体験しています。私はこれを良い事と思うのですが、彼らには師がありません。私は彼らに、修行を続ける事を勧める以外、何一つ助言出来ないのです。私は努めて冷静な顔をしていますが、心の中は、実は、不安なのです。

老師様、来一月に、接心のため、私達を訪ねて頂く訳には参りませんでしょうか？ 1月26日頃、大学の期末休暇が始まります。私達は、5日の接心と、2～3日の友好を暖める期間を設ける事が可能です。これは貴方が私達の僧伽の価値をご覧になる機会にもなります。もし、貴方がお望みならば、クウィーンズ病院の人々と面接出来るよう計画も致します。この事を、どうか、真剣に考慮して下さいをお願いします。かいさんが居なくなって、私達のメンバーは大変失望しています。彼らは、優れた僧の指導を必要とし、貴方自身、こころ庵をじかにご覧になる事が必要だと思えます。全費用は、もちろん、私達が負担致します。

アンと私は元気です。親愛をこめて。合掌。